

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

## 1. 研究課題

東アジア伝統科学における自然と人間

Relationship Between Nature and Humanity in Traditional East Asian Science

## 2. 研究代表者氏名

平岡 隆二

HIRAOKA, Ryuji

## 3. 研究期間

2024年4月-2027年3月(1年目)

## 4. 研究目的

本研究は、前近代の東アジア世界における自然理解と、人間社会によるその利用のあり方について、多角的に考究することを目的とする。

近年の科学史研究では、かつては主流であった科学理論や技術革新の発展史から、社会・思想との相互作用を考察する科学の社会史や思想史、さらには比較科学論へと力点が移行し、多元的なアプローチが必要になっている。本研究では、そうした歴史叙述の大きな見直しに、それぞれの専門から新しい論点や問題を提起することで、東アジア伝統科学の知的体系の解明を進めるとともに、その新しい歴史叙述のあり方にまつわる議論を深化させる。

それとあわせて、「仏教天文学説の起源と変容」班（2021～2023年度）などの先行研究班で行ってきた、円通『仏国暦象編』をはじめとする科学史原典史料の会読を継続的に実施し、将来の訳注刊行に向けた準備を進める。それらの作業を通じて、日本における東アジア伝統科学研究の成果を国内外に発信していく。

This research aims to comprehensively examine a range of perspectives on the understanding of nature and its utilization by human societies in the pre- and early modern East Asian world. In recent studies on the history of science there has been a shift in emphasis away from the history of the development of scientific theory and technological innovation, which used to be the main approaches, to the history of scientific thought in each culture, the sociology of science, and even the comparative history of science, all of which consider cultural background and require a multidisciplinary approach. This research intends to contribute to this significant reevaluation of the historical narrative by raising new perspectives and issues from multiple disciplines, thereby advancing the understanding of the intellectual landscape of traditional East Asian science, and deepening discussions on the new historical narrative.

It will also continue the reading of primary texts like Entsu's "Astronomy of Buddhist Countries," as conducted by earlier research teams including the "'Origin and Transformation of Buddhist Astronomical Doctrines'" group (FY2021-2023), and prepare a future annotated translation for publication. Through these efforts, we aim to disseminate the results of research on traditional East Asian science to both domestic and international audiences.

## 5. 本年度の研究実施状況

二〇二四年度は、合計一九回の研究会（研究報告五回、原典会読一二回、資料調査二回）を実施した。研究報告については計一四名の報告を得ることができ、原典会読については『仏国暦象編』巻五訳注の検討と巻一・二の編集を中心に行った。いずれも、対面もしくはハイブリッド形式で実施した。

研究報告では、「自然観」と「ヒストリオグラフィー」という共通論点のもと、班員らが自らの専門分野に引き付けた報告を行い、コメンテーター・参加者らとの討議を重ねた。原典会読では、『仏国暦象編』全五巻の訳注検討を終了し、また巻一の入稿原稿の編集を完了した。来年度は、年度末の訳注刊行を目指して、巻二以降の編集を進めるとともに、巻一から順次入稿してゆく予定である。また底本に用いた個人蔵の『仏国暦象編』版本が人文研図書室に寄付されたため、訳注刊行とあわせて全文のデジタル画像を公開するための準備を進めた。

資料調査では、人文研が所蔵する科学史資料、とくに近世日本の頒暦関係史料の調査に着手した。

## 6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.8 原典会読 1 会読・編集方針と訳注刊行スケジュールについて 発表者 平岡隆二
- 2024.4.13 研究報告 1 共同研究班 趣旨説明 発表者 平岡隆二 「梵暦運動史の研究」再考  
一神々の明治維新と日本の近代における学知の変容— 発表者 岡田正彦
- 2024.4.22 原典会読 2 『仏国暦象編』巻五・一五 b～一八 b 発表者 梅林誠爾 『仏国暦象編』巻五・一八 b～二一 b 発表者 宮島一彦
- 2024.5.13 原典会読 3 『仏国暦象編』巻五・二〇 b～二一 b 発表者 宮島一彦 『仏国暦象編』巻五・二一 b～二三 a 発表者 小林博行 『仏国暦象編』巻五・二三 a～二七 a 発表者 矢野道雄
- 2024.5.27 原典会読 4 『仏国暦象編』巻五・二七 a～二八 b 発表者 Bill.Mak 『仏国暦象編』巻五・二九 a～三〇 a 発表者 上田真啓 『仏国暦象編』巻五・三〇 a～三一 b 発表者 矢野道雄
- 2024.6.3 原典会読 5 『仏国暦象編』巻五・三二 a～三四 b 発表者 清水浩子 『仏国暦象編』巻五・三五 a～三六 b 発表者 小林博行
- 2024.6.14 研究報告 2 Recycling pages between Batavia and Edo 発表者 ハンスン・ショー

ン コメンテーター 瀬戸口明久、平岡隆二、松田清

- 2024.6.17 原典会読 6 『仏国暦象編』巻五・三五 a～三六 b 発表者 小林博行 『仏国暦象編』巻五・三六 b～三七 b 発表者 梅林誠爾
- 2024.7.8 原典会読 7 『仏国暦象編』巻五・三九 a～四〇a 発表者 高橋あやの 『仏国暦象編』巻五・四〇a～四一 a 発表者 小林博行 『仏国暦象編』巻五・四二 a～四三 b 発表者 梅林誠爾
- 2024.7.22 原典会読 8 『仏国暦象編』巻五・四三 b～四五 b 発表者 小林博行 『仏国暦象編』巻五・四五 b～四七 b 発表者 武正泰史
- 2024.9.2 原典会読 9 『仏国暦象編』巻五・四八 a～四九 a 発表者 清水浩子 『仏国暦象編』巻五・四九 a～五〇b 発表者 上田真啓 『仏国暦象編』巻五・五〇b～五二 a 発表者 宮島一彦
- 2024.9.14 研究報告 3 元禄・享保期の本草学の性格—日本博物学史の再考をかねて— 発表者 太田由佳 江戸時代前期における『簠簋内伝』の受容と貞享改暦：寛文～元禄の簠簋の「末書」をめぐって 発表者 マティアス・ハイエク
- 2024.9.30 原典会読 10 『仏国暦象編』巻五・五〇b～五二 a 発表者 宮島一彦
- 2024.10.5-6 研究報告 4 Astrology and Astral Magic in Islam and Europe: International Conference in Memory of Keiji Yamamoto. Tradition and Innovation in Abu Ma'shar's System of Astrological Lots 発表者 Dorian Greenbaum Translations and Transmission of the Sayings of 'Abū Ma'shar concerning the Secrets of Astrology 発表者 Luca Farina Astrology in the pseudo-Aristotelian Hermetica 発表者 Liana Saif Pythagoras, the Music of Heaven and Astral Magic in Islam 発表者 Yuki Nakanishi Brief Words: My Memory of Keiji Yamamoto 発表者 Michio Yano Arabic in the West: The Transmission of Arabic Letters, Words, Works, Subjects and Curricula 発表者 Charles Burnett Change and Continuity in Pico della Mirandola's Reception of Islamic Thought 発表者 Ovanes Akopyan Paracelsus on Astrology 発表者 Amadeo Murase Jean Fernel and Astrological Medicine 発表者 Hiro Hirai
- 2024.10.28 原典会読 11 『仏国暦象編』巻五・四九 a～五〇b 発表者 上田真啓
- 2025.1.14 資料調査 1 人文研所蔵科学史資料調査 1 発表者 平岡隆二・梅田千尋・嘉数次人
- 2025.1.27 原典会読 12 『仏国暦象編』巻一入稿版検討 発表者 小林博行・宮島一彦・矢野道雄・平岡隆二
- 2025.3.24 資料調査 2 人文研所蔵科学史資料調査 2 発表者 平岡隆二・梅田千尋・嘉数次人
- 2025.3.28 研究報告 5 近世日本の測量術における実践と自然観 発表者 佐藤賢一

## 7. 共同研究会に関連した公表実績

"Astrology and Astral Magic in Islam and Europe: International Conference in Memory of

Keiji Yamamoto" 2024 年 10 月 5・6 日、於京都大学人文科学研究所（科研 B「中世・近世  
イスラム圏と西欧における「魔術的知」の交流史」との共催）

## 8. 研究班員

### 所内

平岡隆二、瀬戸口明久、藤原辰史、高井たかね、宮紀子

### 学内

成高雅(人間・環境学研究科)、河瀬真弥(文学研究科)、西嶋佑太郎(人間・環境学研究科)、  
徳武太郎

### 学外

諫早庸一(北海道大学)、伊藤裕水(山口大学)、小田島梨乃(東京大学大学院総合文化研究科)、  
佐藤賢一(電気通信大学大学院)、武正泰史(東京大学大学院総合文化研究科)、多田伊織(大  
阪大学)、塚原東吾(神戸大学)、三村太郎(東京大学大学院・総合文化研究科)、李麗(名古屋  
大学大学院)、劉青(弘前大学)、池内早紀子(大阪府立大学大学院)、梅林誠爾(熊本県立大学)、  
大島明秀(熊本県立大学)、名和敏光(山梨県立大学)、愛新覚羅闔和(KAI HE)(立命館大学衣  
笠総合研究機構)、上田真啓(立命館大学文学部)、梅田千尋(京都女子大学文学部)、岡田正彦  
(天理大学)、株本訓久(武庫川女子大学)、小林博行(中部大学人文学部)、島山奈緒子(関西医  
療大学)、高橋あやの(大東文化大学東洋研究所)、橋本敬造(関西大学)、林淳(愛知学院大学)、  
檜山智美(国際仏教学大学院大学)、細井浩志(活水女子大学)、宮川卓也(広島修道大学)、矢  
野道雄(京都産業大学)、山下克明(大東文化大学)、山田俊弘(大正大学)、吉村美香(愛知淑徳  
大学)、太田由佳(日本学術振興会)、椛島雅弘(和歌山高専)、永塚憲治(公益財団法人研医会)、  
増田友哉(日本学術振興会)、清水浩子(公益財団法人斯文会)、Hansun HSIUNG(Durham  
University)、全勇勲(韓国学中央研究院)、Matthias HAYEK(フランス国立高等研究実習院)、  
Bill MAK(ニーダム研究所)、Daniel MONTEIRO(ハーバード大学)、宮島一彦(元同志社大  
学)、八耳俊文(元青山短期大学)、吉田薫(独立研究者)、任正嫻(朝鮮大学校理工学部)、嘉数  
次人(大阪市立科学館)、黒須潔(仙台郷土研究会)、陶山徹(長野市立博物館)

## 9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者	若手研究者	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者	若手研究者	大学院生
				(40歳未満)	(35歳以下)				(40歳未満)	(35歳以下)	
人文研所属 (内女性)	1	5 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (24)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	3 (1)	1 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	20 (4)	4 (4)	8 (4)	8 (4)	6 (4)
国立大学 (内女性)	10	10 (3)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	41 (10)	4 (4)	18 (2)	18 (2)	14 (2)
公立大学 (内女性)	4	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	17	16 (4)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	101 (31)	3 (0)	12 (8)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	4	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	1	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	4	4 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	7 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	6	6 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	49	53 (14)	7 (2)	7 (4)	5 (2)	5 (2)	283 (97)	18 (8)	38 (14)	26 (6)	20 (6)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	6		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	43		4	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	1	(0)	1	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	3		3	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	The Encyclopedia of Ancient History : Asia and Africa	1	2024.4	Yavanaajātaka	Bill M. Mak
2	比較思想研究	1	2024.4	空海は科学史上どのように記述されたか：二〇世紀初めの科学史研究における空海発見の文脈比較	山田俊弘
3	Online ( <a href="https://tabsira.hypotheses.org/files/2024/05/Tabsira-146b-152a-Kap.-XLV-2402.pdf">https://tabsira.hypotheses.org/files/2024/05/Tabsira-146b-152a-Kap.-XLV-2402.pdf</a> 、48 ページ)	1	2024.4	al-Ashraf ʿUmar's Tabṣira: Chapter xlv (H,146b,16–152a,13): On the use of the astrolabe	Taro Mimura and Petra G. Schmidl

4	Archive for Philosophy and the History of Science	1	2024.4	Mu'ayyad al-Dīn al-'Urḍī's Impact on Quṭb al-Dīn al-Shīrāzī concerning Planetary Order	Taro Mimura
5	化学	12	2024.4 ～ 2025.3	無知学のススメ（連載）	塚原東吾
6	Medieval History Journal	1	2024.5	Persian Astronomy in China	Bill M. Mak
7	地質学史懇話会会報	1	2024.5	ニコラウス・ステノ『サメの頭部の解剖』（1667）の翻訳と研究（その5）	山田俊弘
8	医譚	1	2024.6	新出の艶本『風流色図法師』巻下の内景図について	永塚憲治
9	”写本文献与東亜伝統医学” 学術検討会論文集	1	2024.6	关于新发现的房中术书《婚姻秘术抄》与艳本《艳颜色钵之木》一卷子本《医心方》“房内”的所在一	永塚憲治
10	国際仏教学大学院大学研究 紀要（第28号）	1	2024.6	クチャ・スバシ東岸寺院址の「地獄繪」壁画の分析一第一次大谷探検隊の記録を手掛かりに一	檜山 智美, <u>橘堂 晃一</u>
11	人文学報	1	2024.6	レールに身体を横たえて――鉄道自殺の技術論	瀬戸口明久
12	Transcending Boundaries. Premodern Cultural Transactions across Asia. Essays in Honour of Osmund Bopearachchi.	1	2024.7	Iconographical Remarks on the Mural Fragments from the Kizil Grottoes in the Hirayama Ikuo Silk Road Museum	Satomi Hiyama

13	科学史研究	1	2024.7	岩橋家製中・小型一閑張望遠鏡の構造及び模様	株本訓久
14	『山田慶兒著作集 第七巻—科学論（近代篇）・欧文』臨川書店	1	2024.7	解題	平岡隆二
15	科学史研究	1	2024.7	書評・紹介：中塚武『気候適応の日本史：人新世をのりこえる視点』	山田俊弘
16	建築知識	1	2024.7	（監修）7章「坐様式の変遷」「明清家具」	高井たかね
17	Distant Media（ウェブ出版）	1	2024.8	文理融合はカッコいいから始まる—C.P.スノー、剣山、軍事科学の三題噺	塚原東吾
18	南山宗教文化研究所研究所報	1	2024.8	覚王山日泰寺をめぐる外交と観光	林淳
19	建築雑誌	1	2024.8	建築アーカイブの現在⑧ 京都大学研究資源アーカイブ	高井たかね・齋藤歩
20	化学史研究	1	2024.9	紹介：齊藤正高『方以智の物理探索—十七世紀中国の自然学とイエズス会の学術』	八耳俊文
21	Inner Asia	1	2024.9	From Zero to Infinity — China's Encounter with Indian Mathematics	Bill M. Mak
22	日本医史学雑誌（第70巻第3号）	1	2024.9	2023年NHK朝ドラ『らんまん』の牧野富太郎と本草学	吉村美香
23	日本漢字学会報	1	2024.9	病名の語形成—接尾語「病」「症」「障害」「症候群」を例に—	西嶋佑太郎



24	近世京都	1	2024.9	藤林普山『武蘭加児都解剖書』と翻訳語	西嶋佑太郎
25	近世京都	1	2024.9	『花彙』とはどのような書物なのか：京都府立植物園大森文庫所蔵稿本の検討課題	太田由佳
26	訓点語と訓点資料（153）	1	2024.9	『日本大辞書』の近世文学用例より考察する山田美妙の辞書編纂法	河瀬真弥
27	現代思想	1	2024.10	無神論と科学、そして無知でいる権利：ダニエル・デネットの逝去に想うこと—総特集 ダニエル・C・デネット：1942-2024 意識と進化の哲学	塚原東吾
28	科学史研究	1	2024.10	書評・紹介：橋本萬平『江戸・明治の物理書』	八耳俊文
29	地学雑誌	1	2024.10	書評・紹介：高橋美野梨編『グリーンランド—人文社会科学から照らす極北の島』	山田俊弘
30	科学史研究	1	2024.10	京城帝国大学から京城大学へ—朝鮮現代科学史の一断面	任正赫
31	現代化学	6	2024.10 ～ 2025.03	「化学」誕生をめぐるヒストリー 連載全6回	八耳俊文
32	東洋研究	1	2024.11	中国兵学思想史における鬼神・廟の認識と位置	栴島雅弘
33	Inner Asia	1	2024.11	‘Converting’ Knowledge, Culture and Themselves: Mongol Imperial Rule	Yoichi Isahaya

				in Thirteenth- and Fourteenth-Century Eurasia	
34	Earth Sciences History	1	2024.11	BORROWED ILLUSTRATIONS OF GLOSSOPETRAE WITH SHARK'S HEAD: STENO AND THE VATICAN COLLECTION OF MERCATI	Toshihiro Yamada
35	Proceedings of the International Symposium on History of Indigenous Knowledge 2024	1	2024.11	幕末佐賀藩の和算家・馬場栄作員之による暦計算について	佐藤賢一
36	日本医史学雑誌（第 70 巻 第 4 号）	1	2024.12	牧野博士からの書簡ー牧野富太郎から吉川芳秋宛書簡ー	吉村美香
37	シルクロード研究論集第 2 巻 仏教東漸の道 西域・中国・極東篇	1	2024.12	クチャと焉耆の仏教遺跡とその美術	檜山 智美
38	日本医史学雑誌	1	2024.12	文化五年の解剖記録について	西嶋佑太郎
39	医譚	1	2025.1	海上随鴟『八譜』諸本の概要と比較	西嶋佑太郎
40	医譚	1	2025.1	野呂天然の解剖図譜について	西嶋佑太郎
41	科学史研究	1	2025.1	書評・紹介：荒川清秀『日中漢語の生成と交流・受容』	八耳俊文
42	人間文化研究所年報	1	2025.1	アジアの神仏融合/習合と日本	吉田一彦、 林淳
43	藤原辰史・香西豊子編『疫病の人文学』岩波書店	1	2025.2	暗中模索の人文学ーつぎの疫病に向けて	藤原辰史
44	藤原辰史・香西豊子編『疫病と人文学ーあらがい、	1	2025.2	「軍事空間」としてのパンデミックー	瀬戸口明久

	書きとめ、待ちうける』岩波書店			COVID-19 とマラリア	
45	国語国文	1	2025.2	訳語作成方法からみた『解体新書』の位置—模倣法について—	西嶋佑太郎
46	後藤明編『星の文化史—世界 13 地域における星の知識・伝承・信仰』丸善出版	1	2025.2	モンゴル	諫早庸一
47	化学と教育	1	2025.3	文人化学者近重真澄と東アジア古代化学史	八耳俊文
48	西川哲矢『三人の藤野先生、その生涯と交流』大阪大学出版会	1	2025.3	藤野恒三郎旧蔵顕微鏡	八耳俊文
49	皇學館史學	1	2025.3	奈良県明日香村西橘遺跡出土「十八種」木簡の来歴	多田伊織
50	マルタン・ノゲラ・ラモス、平岡隆二編『関西の隠れキリシタン発見—茨木山間部の信仰と遺物を追って』人文書院	1	2025.3	茨木へのキリスト教伝来—その由来と展開	平岡隆二
51	日本思想史研究	1	2025.3	近世日本における文化ナショナリズム生起の一側面——賀茂真淵『国意考』に注目して	増田友哉
52	国語語彙史の研究（44）	1	2025.3	『日本大辞書』が国語辞書史にもたらしたものの——『帝国大辞典』『大日本国語辞典』を例に——	河瀬真弥
53	化学と教育	1	2025.3	植民地朝鮮における日本人化学者の研究活動	任正嫻
54	細井浩志、中村琢編『古谷本『暦林問答集』（写真と翻刻）活水女子大学国際文化学部細井研究室	1	2025.3	古谷義昭氏所蔵本（古谷本）『暦林問答集』の概要と翻刻	細井浩志、 <u>中村琢</u>

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	山田慶児著作集第七巻一 科学論（近代篇）・欧文	山田慶児著作集編集 委員会（平岡隆二）	2024.7	臨川書店	
2	クビライ・カアンの驚異 の帝国：モンゴル時代史 鶏肋抄	宮紀子	2025.3	ミネルヴァ書房	

12. 博士学位を取得した学生の数

2（学内1・学外1）

13. 次年度の研究実施計画

二〇二五年度も、1）研究報告、2）原典会読、3）資料調査の三本立てで研究会を実施していく予定である。

研究報告については、科学史のみならず、技術史・医学史・環境史など隣接分野からの報告も得ることで、共通論点である「自然観」「ヒストリオグラフィー」についての議論を深めていく。

原典会読については、『仏国暦象編』訳注の編集と入稿を進め、年度末に刊行する予定である。それと並行しながら、次に会読を予定している『宿曜経』『天経或問』などの著作についての研究・調査を進める。

資料調査については、本年度に着手した人文研所蔵史料の調査・研究を継続する。以上で得られた成果については、随時発表、論文等の形で共有・公開につとめたい。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

円通『仏国暦象編』全五巻の訳注を、臨川書店の訳注シリーズ『京大人文研科学史資料叢書』から刊行する予定である。また、同訳注の底本として使用する版本（人文研所蔵、宮島一彦氏旧蔵）のデジタル画像もあわせて公開することを目指す。また、今年度の研究報告、資料調査で得られた成果については、必要に応じて班員同士のワーキンググループを組織し、共同研究としての問題意識や史料情報の共有を進めてゆく。